

コミュニケーション指向の初級読解教材作成のための ニーズ調査とその分析

福井大学留学生センター

桑原陽子

kuwayo@gmail.com

大阪府立大学人間社会学部・野田尚史

アメリカンスクールインジャパン・内藤満地子

高知大学留学生センター・今井多衣子

(元) 岩谷学園テクノビジネス専門学校日本語科・北浦百代

キーワード：読解，非漢字系，初級，^{なま}生の素材，ニーズ調査

1. 本研究の目的

従来の初級読解教材は、既習の文型・語彙を文章中で確認するにとどまるものが多いが、学習者が実際に読みたいものを読めるようになるためには、「読む必要のある素材から必要な情報を効率よく得る技術」の学習を主眼にした教材が必要である（野田(編), 2005）。では、その「技術」とは具体的にどのようなものだろうか。それを明らかにするには、実際に読む必要が高い^{なま}生の素材を学習者がどのように読み、その過程にどのような困難があるのかを知る必要があるだろう。

この発表では、「素材から必要な情報を効率よく得るために不可欠な知識と技術」を明らかにするために行った調査の結果から、以下の(1)(2)について述べる。それをもとに、初級読解教材に盛り込むべき学習項目を整理する。

- (1) 未習の語彙・表現が多く含まれる^{なま}生の素材を読む際、そこから情報を読み取るために、学習者はどのような知識や技術を用いているか。
- (2) 学習者が個々の素材を読む際に重要な語彙・表現にはどのようなものがあるか。

調査の結果をもとに、(1)については3.で、(2)については4.でまとめる。

2. 調査方法

【調査協力者】

調査協力者は、母語の表記に漢字を使用しない非漢字系日本語学習者 20

名である。調査協力者のうち数名は日本語学習開始以前に中国語（簡体字）の学習経験があったが、非漢字系学習者として扱ってよい程度の漢字の知識しか持っていなかった。全員、日本語を読む能力が入門期を含む初級レベルである。この中には聞く能力と話す能力は高いがひらがな以外の文字がほとんど読めない学習者も含まれている。調査協力者の属性は以下の通りである。（下線を引いた項目は最多のものである。）

〔職業〕 学生 8名，教師 4名，研修生 2名，会社員 1名，パート・アルバイト 2名，主婦 2名，無職 1名

〔母語〕 英語 8名，スペイン語 3名，フィリピン語 2名，フランス語 2名，モンゴル語 2名，ラオス語 1名，マダガスカル語 1名，ドイツ語 1名，

〔ひらがな〕 ほとんど読める 16名，だいたい読める 4名

〔カタカナ〕 ほとんど読める 12名，だいたい読める 2名，あまり読めない 4名，ほとんど読めない 2名




〔漢字〕 200 字以上 4名，100～200 字 1名，50～100 字 6名，10～50 字 2名，10 字以下 6名，0 字 1名

【調査材料】

日本語学習者が実際に読む必要の高い素材を 9 種類用意した。具体的には次の通りである。

薬の説明書（図 1 参照），スーパーのちらし，食品ラベル，料理のレシピ，不動産情報，店舗のスタンプカード，学校からのお知らせ，インターネットのニュース，プレゼント情報。

図 1 調査材料例（薬の説明書）

くすりの名前	色・形	用法・用途	効能・効果	くすりに関する注意事項
アダラート L 錠 10mg		1 回 1 錠 1 日 2 回 朝・夕食後 1 4 日分	・心臓へ酸素や栄養を供給している冠血管を広げる薬です。 ・末梢の血管を拡げて血圧を下げるお薬です。	薬の効果が強く現れることがあるのでグレープフルーツジュースを服用しないでください。 めまい等が現れることがあるので高所作業や車の運転には注意してください。
セルベックス カプセル 50mg		1 回 1 C 1 日 3 回 毎食後 1 4 日分	・胃の粘膜を修復する薬です。	この薬を服用すると、痛みなどの症状が軽くなるがありますが、勝手に服用を中止しないでください。
ガスター 錠 20mg		1 回 1 錠 1 日 1 回 寝る前 1 4 日分	・胃酸の分泌を抑える薬です。	この薬を服用すると、すぐに胃の痛みがなくなりますが、指示どおり服用を続けてください。

調査材料はすべて日本語の生の^{なま}素材であり、日本語学習者のためのルビの付加や漢字の使用制限、平易な文への書き換えなどは一切行っていない。

【調査方法】

個別にインタビュー調査を行った。調査者は調査協力者に調査材料を1つずつ見せ、素材中の重要な情報が読み取れるかどうかを確認した。その際、重要な文や語彙についてどう読んだのか、なぜそのように読んだのかを聞いた。読みの困難点やどのような推測を働かせたかを詳しく聞き出すために、インタビューは調査協力者の母語または英語で行った。ただし、読む能力は低い、日本滞在が長く日本語での会話に問題がない者に対しては日本語でインタビューを行った。

3. 未習の語彙を補って読むために学習者が利用する知識

インタビューから、個々の調査材料中に、全員何らかの未習の語彙があったことが確認された。つまり、情報を読み取るために、全員がすべての調査材料において、語や文の意味について推測をしながら読むことが必要であった。学習者の読みの過程を観察・分析すると、(3)から(7)の知識を利用しながら、推測を行って読んでいることがわかった。

ただし、これらの推測は、情報の読み取りの成功につながる場合もあれば、うまく機能せず情報の読み取りの失敗、さらには誤読につながる場合もあった。そこで、読みに成功した例を○、失敗した例を●として示す。

(3) 素材そのものについての知識を利用する。

素材そのものについての知識があれば、素材中の日本語がほとんどわからなくても、必要な情報が正確に得られることが確認された。その反対に、素材そのものについての知識がないために、読みが困難になっている事例も多数観察された。

- スタンプカードのシステムを知っており、その知識を利用して、「300円につきスタンプ1個押印」などの説明部分が読める。「～につき」「押印」がわからなくても「300円」「1個」だけから情報が正確に読み取れる。
- 「薬の用法」として、母国では「食事中に服用」が比較的一般的であり、逆に「食間に服用」というのを聞いたことがない。そのため、注意書きに書かれた服用時間「食前」「食後」「食間」が推測できない。
- 「運動会」が母国にないので、学校からの運動会のお知らせの内容が想像できない。
- 賃貸マンションの料金の仕組み（共益費など）がわからない。

(4) 素材の書式についての知識を利用する。

書式についての知識は、日本語の素材の書式を知っている場合もあれば、母語の書式の知識を援用している場合もあった。したがって、母語と日本語で書式が異なっている場合は、間違った推測につながる

傾向があった。

- 薬の注意書きは一般的に「用法」「効能」「注意」の順で書かれているという知識がある。また、効能は比較的短い文で、単語の羅列によって表記されることが多いと知っている。これらの知識を利用して、「用法」「効能」「注意」がどこに書かれているかわかる。
 - 子供の学校から届くフォーマルなお知らせの書式が母国の場合と異なっている。そのため、宛名、送付者名がどこにどのように書かれているかわからない。
 - 不動産情報の書き方が母国と異なっている。例えば、「1LDK」のような間取りの示し方や、アパート・マンションの所在地について最寄り駅を中心に示すこと（例：中央線阿佐谷駅徒歩5分）が母国で一般的でないため、それらを見ても意味がわからない。
- (5) 文末の表現形式についての知識を利用する。
- 薬の注意書きの「～ください」「～てはいけません」を手掛かりに、そこに書かれているのが「注意」と推測できる。同時に、「～です」が続く部分は「効能」と推測できる。
- (6) 助詞の機能についての知識を利用する。
- 助詞「で」が手段・方法を示すと知っており、プレゼント情報を読む際、「抽選で」の「で」に注目して、ここにプレゼント当選者の選抜方法が書いてあると推測できる。
 - レシピ中の「水を少量（大きじ約1杯）加えてください」について、『を』の後ろは動詞が来る」と考え「少量」を動詞と考えた。
- (7) 漢字・単語についての知識を利用する。
- 株価の変動ニュースを読む際に「高」「安」がわかっており、数字とそれらの漢字の組み合わせから、株価がどう変動したかについて読み取ることができる。

これまでの読解教材は、(5)から(7)のような文型・語彙を確認することが中心であったと言えるだろう。しかし、今回の調査から、(5)から(7)はもちろんだが、それだけでなく、(3)(4)のような素材そのものに関する知識、書式についての知識が、情報の読み取りの成功に大きく関わっていることが示された。したがって、コミュニケーション指向の読解教材では、これらの解説と学習の比重を大きくする必要があるだろう。

4. 各素材を読むために重要な漢字・単語・表現

学習者の読みの過程を観察すると、(5)から(7)のような、素材を読むために必要な漢字・単語・表現がわかることは、情報の読み取りに非常に有利であることが確認できる。例えば、以下のような事例が観察された。

- 学校からのお知らせを読む際、「場」「館」の漢字が「場所や建物

を示す」ことを知っており、日時、場所などの情報がどこに書かれているかわかる。

- 「値引」のうち「引」の漢字の意味を知っており、「600円値引」や「100円を割り引きます」が正確に読み取れる。この場合、「値」「割」がわからなくても、数字（金額）との組み合わせから読み取りが可能である。
- 「様」が丁寧さを示す呼称であることを知っており、その前には人の名前や客に関する言葉が来ると予測できる。

これらのほとんど場合、漢字の読み方がわからなくても、正確にその意味が理解されていた。漢字の発音ができることと、その意味が理解できることは別のものであると言えるだろう。

また、「値引」「割引」の例のように、熟語として学習していなくても、その熟語のうちポイントとなる漢字さえ知っていれば、情報を得られることが示された。

一方、ポイントになる漢字や単語がわからないため、読めなかった事例も多数見られた。

- 「先着」がわからないので、スーパーのちらしに書かれた「先着1000点限り」がわからない。また、「点」が商品の数を示す助数詞だと知らず、「点＝ポイント」だと考え、ポイントカードに特別なポイントが付加されると誤解する。
- 「～ください」を「～下さい」と表記することを知らず、「～下さい」について、「下」の意味から、「何かよくないこと」について述べていると推測する。
- 「薬の説明書」の「1回1錠、1日2回」の「回」「錠」「日」の意味と、用法の書き方のルールがわからないので、用法が読み取れない。

情報の読み取りのために重要な漢字・単語・表現は素材によって異なっているため、まず、それらを素材ごとに整理することが必要である。さらに、今回のインタビューの結果から、学習者の負担をできる限り減らすために、素材を読むのに必要最低限の漢字・語彙に絞ること、漢字や単語だけを単独に提示するのではなく、素材中のどこにどのような形で現れるのかについての情報も併せて提示することが重要であることが示唆された。

例えば、「薬の注意書き」の薬の用法の場合、「回」「錠」「日」を個別に覚えるのではなく、『1日2回』のように『1日』から始まる場合は、1日に飲む回数が書かれており、『1回1錠』のように『1回』から始まる場合は、1回に服用する薬の数が書いてある」という知識と併せて学習するということである。「4日4回」「2回4錠」という書き方は存在しないので、「1日」と「1回」さえ読めれば用法の読み取りは可能になる。そして、

「錠」に関する知識は、「薬の用法で『1回』といっしょに使われる複雑な字で、錠剤の個数を示す助数詞」程度で十分であり、薬の用法では決して使用されない「銀」や「鉄」と区別できる必要はない。入門・初級レベルで生の素材から効率よく情報を得ることを目指すのであれば、このような思い切った省力化を考える必要があるだろう。

5. まとめ

調査の結果、読むための知識と技術として、(8)から(10)の項目を整理し、学習者に提示する必要が示された。

- (8) 素材に関する背景知識を、学習者の視点で整理する。例えば、母国では薬を食事中に服用することが一般的で、食後、食間に服用することにすぐ思い至らない場合、薬の用法の読み取りは困難になる。そして、このような読みの困難点は、日本語母語話者の日本語教師にはなかなか気づきにくい。学習者にとって有用な情報提供のためには、各素材について今回のような調査を行うと同時に、非母語話者の日本語教師の視点を取り入れる必要がある。
- (9) 日本語の素材の代表的フォーマット（文書の構成）と、母語の素材のフォーマットとの違いを明確にし、どの部分に何が書かれているか、どの部分が重要かわかるようにする。
- (10) 素材を読むために必要な漢字・単語・表現を精選し、それが現れる状況や文脈についての情報といっしょに提示する。漢字語彙の場合は、その意味を理解することを重視し、その読み方(発音)がわからなくても必要な情報が読み取れるようになることを目指す。

特に、今回の調査からは、(8)(9)が非常に重要であることが示された。このような素材に関する背景知識、書式についての知識があれば、かなりの情報を読み取ることができ、それらがわかった上で(10)のような重要な漢字と単語の知識が加われば、情報の読み取りが非常に効率的に行われることが観察された。逆に、漢字や単語を知っていても(8)(9)の知識が不足していれば、情報の読み取りが困難になる事例が多数見られた。(8)(9)の知識が、日本語を読む以前に母語で与えられれば、読みの効率は飛躍的に高くなるであろう。

また、調査中、被調査者からは「これをもっと早く知りたかった」「前からわからなくてぜひ知りたいと思っていた」「役に立つ」という感想も聞かれた。本当に読む必要のある素材を用意すれば、ひらがな以外ほとんど読めない学習者にいきなり生の素材の読みに挑戦させたとしても、それほど負担にはならないことも実感できた。

引用文献

野田尚史（編） 2005 『コミュニケーションのための日本語教育文法』
くろしお出版

*本発表は「平成 21-25 年度科学研究費補助金基盤研究（A）「コミュニケーションのための日本語ウェブ教材の作成と試用」（研究代表者：小林ミナ，課題番号 21242012）」による研究成果の一部である。